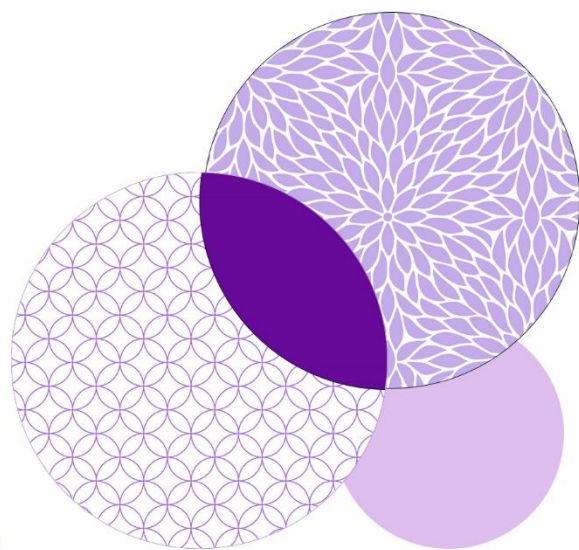




潮来市 観光振興基本計画 令和編



概要版

潮来市観光振興基本計画とは

1. 趣旨と目的

本市は、第7次潮来市総合計画で掲げた「地域への親しみと誇りを育て、全ての世代の市民が日々の生活を愉しみながら、未来につなぐまちづくり」を理念に、市民と創る潮来市の姿として新たなまちづくりを推進しています。



その中で、観光分野は重要な産業となっており、観光産業が活性することは、市全体の活性化に繋がるものとなっています。そのため、観光交流人口の増加に向けた施策の推進を展開していくことが必要です。

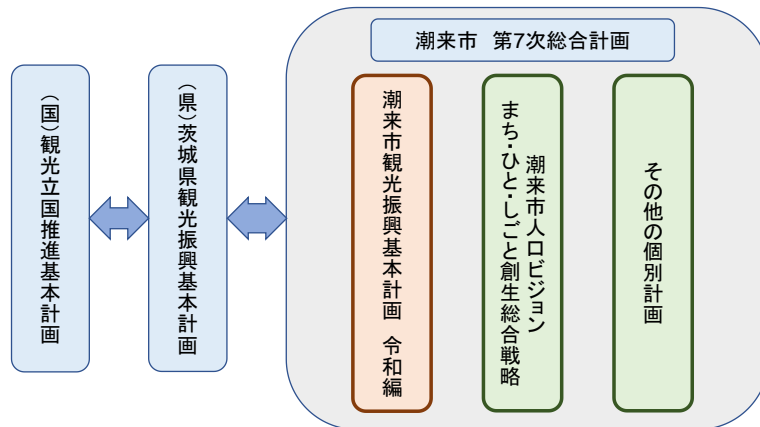
必要な施策

- ★新たな観光資源の発掘
宿泊滞在型観光と通年観光型観光の実現
- ★外国人観光客の誘致や受け入れ
- ★広域観光との連携
- ★体験型観光の充実等

そのため、社会情勢や潮来市の観光における状況の変化、観光を取り巻く課題や特徴を踏まえ、行政・団体・市民が一体となり潮来市観光に関する政策を進めるため、潮来市観光振興基本計画を策定します。

2. 計画の位置づけ

本計画は、潮来市観光振興計画の内容を踏襲しながら、市の最上位計画である潮来市第7次総合計画を推進するため、潮来市人口ビジョン まち・ひと・しごと創生戦略に準拠しながら、関連諸計画を踏まえ策定をしました。



3. 計画の期間

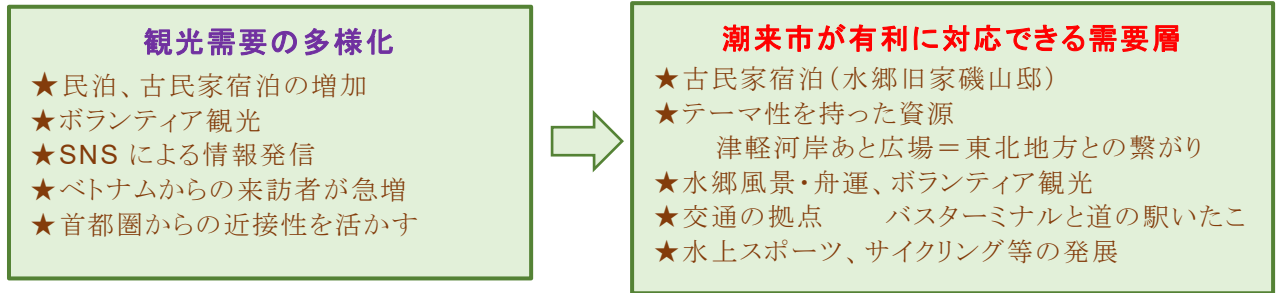
この計画は、令和2年度から令和6年度までの5年間の計画とします。

ただし、今後の観光ニーズや社会経済情勢に大きな変化が生じた場合は、必要に応じて見直しを行うこととします。

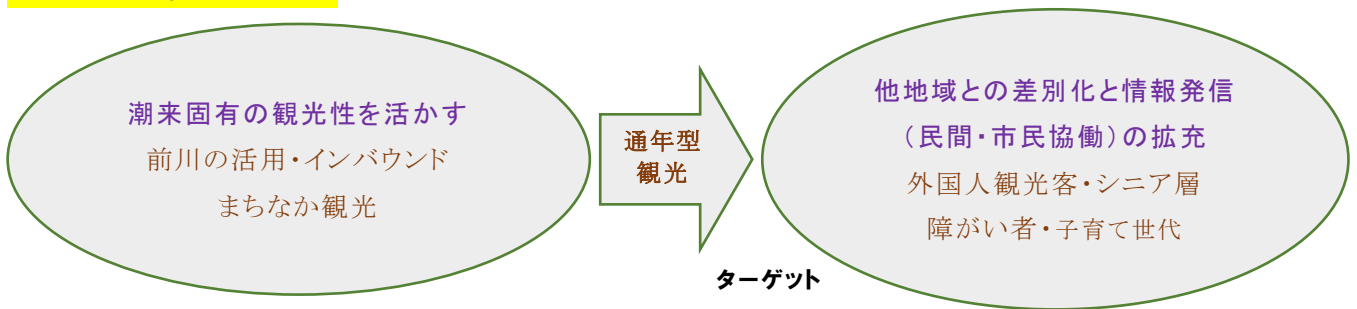
年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
茨城県観光振興基本計画	→		→			→				
潮来市総合計画(第7次)	前期計画					後期計画				
潮来市観光振興基本計画	→									

観光の状況

日本全体での多様化する観光需要に対し、観光客を個別に対応することが求められ、今後は潮来市の特性を強調した個性的な魅力を発信することが重要です。固有性と競争力を、潮来市の個性として差別化することで新たな需要層をターゲットとし、観光施策の充実を必要としています。

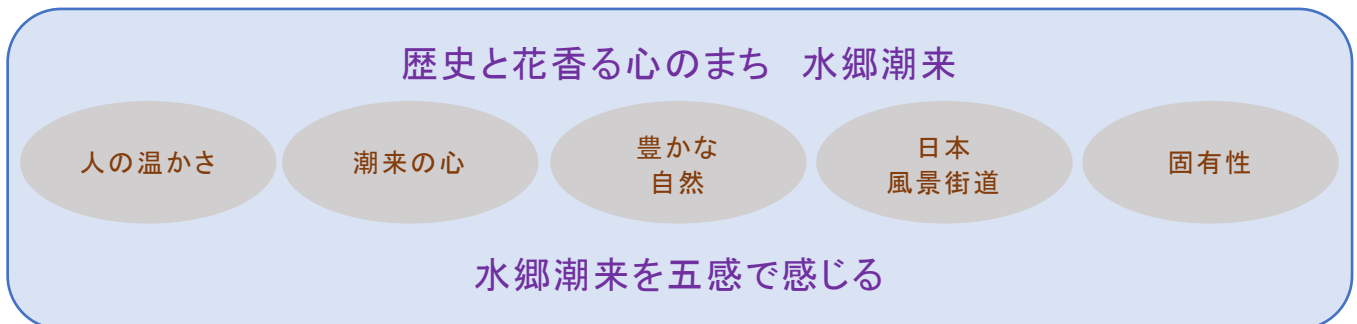


計画の重要ポイント



基本方針

潮来市の観光を巡る動向や課題等を踏まえ、潮来市観光振興基本計画の将来像を設定します。



計画を実現するため、以下の3つを基本方針として、各施策や重点施策を立案します。

① 外国人観光客の誘致と対応

東京オリンピックやパラリンピック、大阪万博博覧会等の開催、茨城空港の発展および成田空港からの近接性を活かし、外国人観光客を積極的に誘致。

② ターゲットの明確化と他地域との差別化

外国人観光客、高齢化社会を背景としたシニア層、各分野で活躍し社会進出が目覚しい障がい者や旅行形態の変化による3世代(子育て世代)をターゲット化。

③ 民間活力の活用と人材育成

潮来市商工会、水郷潮来観光協会、市民団体やボランティアグループ等各種団体、県立潮来高等学校地域ビジネス科を含めた人材育成。

計画の内容

解決すべき課題

外国人観光客が安心して気軽に訪問ができること

- 成田空港や茨城空港との近接性を活かし、立ち寄りもらえる水郷潮来の創出。
- 外国人が好む観光行動の分析と、迷わずまちなか周遊ができる標識の設置等。
- 外国人観光客の商習慣に合わせた企業経営と関連団体の支援の継続。
- 安心して滞在できる施設の管理。

潮来市内の観光資源や観光拠点間の連携を行うこと

- 市内観光拠点施設を結ぶ方法の考案。
- 観光のトップシーズンとオフシーズン対策。
- 道の駅いたこと風景街道の連携強化、機能強化。

市民や民間との協働で観光を盛り上げていくこと

- 展開される施策に対する各種団体等との協働。
- 若い人々の意見や考えを積極的に取り入れる。地元高校生のフィールドワークの場とし、潮来市への帰属意識を高める。
- 水郷潮来らしい食の提案や土産品、特産品の開発を協働で進め、潮来市の特性や個性を強調していく。

具体的施策

施策1 空港での空き時間を利用した外国人観光客の誘致

重点施策 外国人観光客の志向に特化した観光商品づくり

主な取組

- 外国人観光客向けの潮来の魅力商品開発、交通利便性の告知、宿泊費や飲食費の支払い方法の多様化対応(カードやキャッシュレス)。

施策2 水郷潮来の食の提案

重点施策 第6次産業の推進

主な取組

- 潮来産の米加工の横展開による販売拡大、非アレルギー食対応、参加型観光商品開発、モスリム対応

施策3 まちなか観光 周遊ガイド

重点施策 ろ舟の事業化と30分の観光周遊コース

主な取組

- 道の駅いたこ・あやめ園・前川・津軽河岸あと広場・バスターミナルとろ舟・嫁入り舟等を活用したまちなか観光拠点等の連携および整備。
- 多様なまちなか周遊ルートと施設のバリアフリー化。
- 自転車利用への積極的な対応。

施策4 道の駅いたこと風景街道の連携

重点施策 嫁入り舟とあやめ娘のブランド化

主な取組

- 潮来ブランド(嫁入り舟等)の周知。
- まちなか観光拠点の整備および前川(河岸)や道の駅いたこ、鯉川へ通じる水路を活かした観光ネットワークの構築。
- 重点道の駅・日本風景街道による観光拠点の形成および機能強化。
- サイクリング対応施設の整備。
- 潮来の個性を強調するイベントとフィルムコミッション。

共通施策：情報発信(市民・民間協働)
旅行者等との連携強化と情報の発信
インパクトを与える潮来市固有の商品紹介

潮来市観光振興基本計画
将来像

歴史と花香る心のまち
水郷潮来

施策5 多彩な既存施設の活用

重点施策 施設の持つ機能の広報と誘客

主な取組

- 潮来市内運動施設等、つくば霞ヶ浦りんりんロード、潮来市立ボートセンター「あめんぼ」や北浦航空隊跡地等の活用と誘客。
- 多様なスポーツ観光の推進。
- ボート教育による交流。

施策6 わかりやすい案内標識

重点施策 著名地点の選定など案内の手順を整える

主な取組

- 観光等スポットを繋げる案内ルート、マップやカーナビとの連動、ピクトグラムを採用。
- 案内標識のローマ字化。

施策7 徳島園地・水郷トンボ公園環境利用学習と市民協働による環境の維持

重点施策 市民協働と収益性の確保のモデル構築

主な取組

- 官民協働のモデルとして、市民協働と企業等を含めた恒常的な管理を行う。
- 他地域にはない環境利用学習施設の活用と整備。
- ガイドブック等の有効活用。

施策8 人材育成と協働の推進

重点施策 周遊コースの見直しと有料ボランティアの実施

主な取組

- まちなか周遊でのボランティアガイド・国際化(多言語)対応・シニア・障がい者に対応できる人材の育成。
- 地域の歴史や文化を観光に繋げていく。
- 若者の人材育成。(茨城県立潮来高等学校地域ビジネス科との連携)

政策目標

計画における政策目標として次のとおり設定します。

観光入込客数	300万人	通年型観光
外国人観光客宿泊数	10,000人泊	入込客数 20,000人
外国人観光客経済効果	17億円	8,314円/日/人

この目標を達成するため、誘致活動や情報の収集と発信を必要とし、消費の機会を増やすため、まちなか周遊等による滞在時間を増やし、特産品や土産品開発を始め、潮来らしい食の周知を行っていきます。

具体的施策

計画のテーマや**3つの基本方針**(外国人観光客の誘致・ターゲットの明確化と他地域との差別化・民間活力の活用と人材育成)に沿って、**8つの具体的施策**を設定します。
この中で「情報の発信」は各施策に共通する項目です。



【共通施策】情報の発信

◎旅行業者等との連携強化と情報の発信

外国人観光客は訪問地状況をホームページやブログ等で収集するため、観光の企画等は SNS 等を活用します。交通機関や旅行会社を積極的に巻き込みながら、多言語による発信をはかります。

◎インパクトを与える潮来市固有の商品紹介

新しい飲食品や郷土の味、酒類や米を使った菓子等の特産品を多言語化で紹介し、SNS を活用し情報発信に取り組みます。

【施策1】空港での空き時間を利用した外国人観光客の誘致

◎時間待ちの外国人観光客が潮来観光を楽しんでいます。

成田空港や茨城空港からの近接性を活かして、外国人に潮来市を知ってもらう機会を増やし、行きたい観光地になれるよう外国人観光客に特化した内容の充実をはかります。

【施策2】水郷潮来の食の提案

◎第6次産業の振興と米を使った非アレルギー食材の提供をしています。

観光客の滞在時間を長くし、外国人観光客にも関心を持ってもらうために、他地域では取り組みが遅い非アレルギー食に特化した郷土食の提供をはかります。

水郷潮来の食文化の魅力と、安心して食べられる郷土食の情報の周知をはかります。



【施策3】まちなか観光 周遊ガイド

◎滞留時間の長い潮来観光、ろ舟の事業化が進み、観光客がろ舟・歩行・自動車・バス等により30分の観光周遊コースなどを活用して市内周遊観光をしています。

潮来市内での観光客の滞留時間を確保し、消費の誘導に繋がる事業を進めます。

前川等の整備を進め、ろ舟の通年化事業の推進をはかります。

多様な移動手段を組み合わせ、30分の観光周遊コースなど水郷潮来の魅力づくりに取り組みます。



【施策4】道の駅いたこと風景街道の連携

◎まちなか観光拠点が活かされています。

道の駅いたこと水郷潮来バスターミナルに加えて、水郷潮来あやめ園・津軽河岸あと広場・水郷旧家磯山邸を水辺空間としてまちなか観光拠点と位置づけます。

風景街道と道の駅いたこの連携を強化し、前川沿いの河岸や道の駅いたこと、鱈川へ通じる水路を活かした観光ネットワークの構築を行い潮来市の観光振興を促進します。



【施策5】多彩な既存施設の活用

◎水郷潮来で身体を動かすことの魅力を発信し、アスリートも観光客として訪れています。

水郷潮来で行う散歩やサイクリング、釣りや各種スポーツ等の魅力を発信し、観光メニューとして誘致と滞在に結び付けます。

つくば霞ヶ浦りんりんロード、潮来市立ボートセンター「あめんぼ」や北浦航空隊跡地等、市内にある資源や資産を活用し、アスリート(健常者・障がい者)や外国人も利用できる環境づくりに努めます。



【施策6】わかりやすい案内標識

◎外国人でも迷わない案内標識が充実しています。

潮来市内の公的施設や公園、文化財や建造物等に迷わず到達できるよう、統一した案内標識を設置し、多言語化を推進します。

【施策7】徳島園地・水郷トンボ公園 環境利用学習と市民協働による環境の維持

◎協働により徳島園地・水郷トンボ公園の自然環境の維持がされ、環境利用学習が推進されています。

行政と地元住民、NPO 法人、民間企業等が協働して自然環境の維持ができる体制の構築を検討します。生態系が気軽に理解できる環境学習と、外国人観光客も訪れる公園の整備をはかります。

【施策8】人材育成と協働の推進

◎おもてなしの心を持って、市民が来訪者への案内を積極的に行っています。

観光産業を支えるため、シニア層・障がい者・国際化に対応できる人材の育成を行い、市の文化や歴史に学ぶ機会の活用を通して、観光ボランティア活動の促進をはかります。

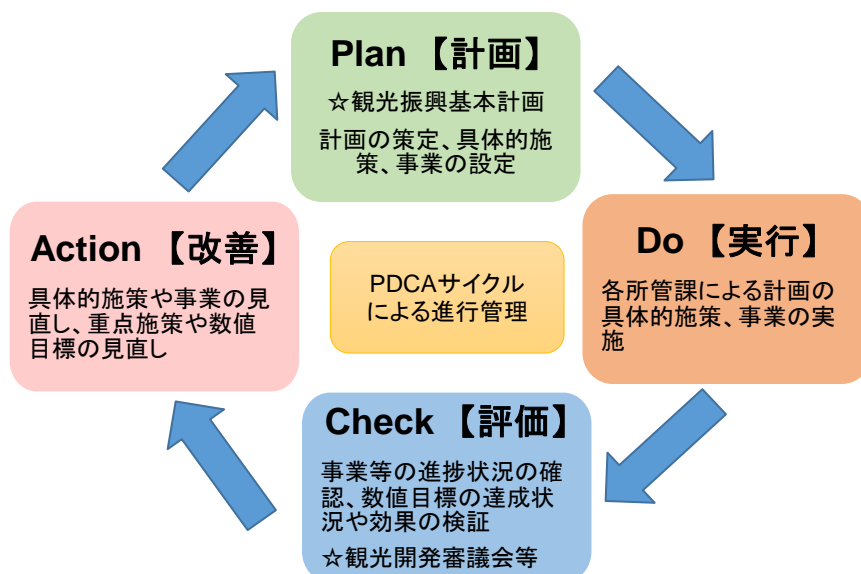
潮来市内の周遊コースを見直し、短時間コースや昼食付コース、有料ボランティアガイド付きコースなどのまちなか観光メニューに幅広い人材で対応します。

茨城県立潮来高等学校地域ビジネス科との連携をはかり、地域の若者が市の文化や歴史に触れ合う機会を増やします。

計画の進行管理

PDCA サイクルによる検証を行い、事業や数値目標の見直しを行います。

潮来市三者定例会(潮来市・水郷潮来観光協会・潮来市商工会)で協働事業の進捗確認を行い、潮来市観光開発審議会ですべての検証を行います。



潮来市環境経済部産業観光課
〒311-2493 茨城県潮来市辻 626
TEL:0299-63-1111(代)
FAX:0299-80-1100